

### 3. 平成14年度に特に注意を要する病害虫

北海道病害虫防除所

#### 1. はじめに

北海道病害虫防除所、道立各農業試験場および道農業改良課等で実施した病害虫発生予察事業ならびに試験研究の結果から平成14年度に特に注意すべき病害虫について報告する。

#### 2. 平成13年度に多発した病害虫

平年に比べてやや多発～多発した病害虫を表1に示した。

#### 3. 平成13年度に新たに発生または命名された病害虫

病害11種、害虫21種について表2に示した。

#### 4. 平成14年度に特に注意を要する病害虫

##### (1) 水稲のいもち病

品種の変遷に伴う主要レースの変動ならびに抵抗性が十分でない栽培品種構成などの要因が重なって、平成4年頃から全道各地で恒常的にいもち病の発生が見られるようになり、平成7年、12年、13年には好適な気象条件も加わり多発した。近年、病原菌密度が全道的に高まっていると思われるため、今後は発生を抑え、病原菌密度をいかに抑えていくかが重要である。

本病は種子伝染する事が明らかになっており、被害の軽い罹病籾は外観は健全籾と変わらず塩水選でも除去できないこと、玄米も保菌している場合は種子消毒の効果が完全ではないこと、種子伝染し保菌した苗は初発が早く、その後の発病も多くなることなどから、前年度いもち病が発生した水田の籾は種子として使用しないことが重要である。また、種子消毒を徹底するとともに、育苗ハウスや水田周辺の衛生に努め籾殻や稲わらを完熟堆肥にするなど適正に処分する、代かき後のゴミを畦畔などに放置しない、補植用取り置き苗はなるべく早く処分する、窒素肥料の多用を避けてケイ酸資材の施用に努める、BLASTAMの利用や

ほ場観察を行って早期発見・防除に努めることが大切である。

##### (2) 大豆の黒根腐病

平成13年8月に新篠津村の水田転換畑で大豆の立枯症状が発生し、この原因について検討したところ、*Calonectriaailicicola* による黒根腐病であることが判明した。

本病は九州から東北にかけて38府県で発生が確認されているが、北海道での発生は認められていなかった。府県の場合、本病は水田転換畑での被害が特に大きく、白絹病、茎疫病とならび、最も重要な立枯性病害のひとつとして位置づけられている。近年、北海道においても水田転換畑を中心に栽培振興策がとられ大豆の作付面積が急増している。そのような水田転換畑においては過作傾向になりやすいことから発生拡大が危惧され、今後本病の発生動向には注意を要する。

##### (3) ばれいしょのジャガイモシストセンチュウ

ジャガイモシストセンチュウは昭和47年度に後志支庁管内真狩村で発見されて以来、網走、胆振、根室、渡島、上川および釧路支庁管内で順次発生し、平成12年までに20市町村で発生が確認されている。また、既発生地域内での発生面積は近年も拡大を続けている。

発生地域の拡大には、発生地域からの土壌の移動が深く係わっていると考えられることから、発生ほ場との安易な行き来は控え、やむを得ず出耕作を行う場合には、農機具の洗浄を十分に行うなど未発生ほ場へのシストの持ち込みを防ぐ。また、種いもによっても伝搬することから、原則として、正規の種いも以外は使用しない。

さらに、未発生地域では植物検診、発生地域では植物および土壌検診が義務づけられており、これを継続することが防除対策上極めて重要である。

植物検診は、シストの着生が多い時期（道央および道南：7月上～中旬、道東および道北：7月中～下旬）に行う必要があり、この時期以降になると着生していたシストが脱落し、判定が不能となるので、適正時期を逸することのないよう検診時期を厳守することが大切である。調査場所は塊茎

の堆積場所や畑に入る通路沿いの部分を主体とし、生育不良や葉の黄化している株を選ぶことが大切である。

発生地域においては、ほ場の線虫密度を長期的に低く維持するため、抵抗性品種を組み入れ、4年以上の輪作を基本とする。

表1 平成13年度にやや多発～多発した病害虫

作物名	病害虫名
水稻	葉いもち、穂いもち、アカヒゲホソミドリカスミカメ
秋まき小麦	赤さび病
大豆	べと病
小豆	菌核病、灰色かび病、茎疫病
菜豆	菌核病、灰色かび病
ばれいしょ	疫病、軟腐病、粉状そうか病
りんご	腐らん病、キンモンホソガ、ネズミ類
たまねぎ	白斑葉枯病、軟腐病、乾腐病、タマネギバエ
ねぎ	さび病、ネギアザミウマ
だいこん	軟腐病、キスジトビハムシ
はくさい	軟腐病、黒斑病
キャベツ	ヨトウガ

表2 新たに発生または命名された病害虫

作物名	病害虫名病原菌・害虫の学名	病徴・加害様相
小麦	褐色雪腐病（病原の追加） <i>Pythium paddicum</i>	融雪直後、葉が濃緑色水浸状に腐敗。 <i>P. iwayamai</i> による褐色雪腐病は報告あり。
大豆	黒根腐病（新発生） <i>Calonectria ilicicola</i>	葉がしおれ枯死。地際部・主根は褐変し容易に引き抜ける。主根上部に赤色で直径0.5mm程度の子のう殻が多数付着。
大豆 ・キャベツ	ナミハダニ(赤色型)（新寄主） <i>Tetranychusurticae</i>	葉に寄生。吸汁により葉が白化。
小豆	腐敗病（仮称） <i>Pythium spinosum</i>	出芽前立枯。特に白小豆の品種・系統が弱い。
ねぎ	菌糸腐敗病（新称） <i>Botrytis byssoidea</i>	軟白ねぎの葉鞘部と葉身襟部に、暗緑色水浸状の小病斑、急速に暗灰褐色の大型病斑に拡大、周囲および罹病葉鞘内部に白～淡緑色の綿毛状菌糸が密生して腐敗。病斑の中央部に灰褐色の胞子形成。胴割れ症状。まれに直径2～7mm、黒色、類球形で表面が凹凸の菌核を形成。
きゅうり	褐斑病（新発生） <i>Corynespora cassiicola</i>	葉に褐色の斑点、葉全体に拡がって黄化・萎凋し枯死。

表2 ( 続き ) 新たに発生または命名された病害虫

作物名	病害虫名病原菌・害虫の学名	病徴・加害様相	
トマト ・モロヘイヤ	カンザワハダニ ( 新寄主 ) <i>Tetranychuskanzawai</i>	葉裏にコロニーを作って寄生し、加害部分は葉表からみると紫褐色の斑点、少し膨らむ。	
ピーマン ・レタス	ツメクサガ ( 新寄主 ) <i>Heliothis maritimaadaucta</i>	ピーマンでは葉・芽の食害および果実に食入。レタスでは葉を食害。	
ヤーコン	チャノヒメハダニ ( 新発生 ) <i>Brevipalpus obovatus</i>	葉を吸汁。	
	( 以下すべて新寄主 )		
	ヨトウガ ( <i>Mamestrabraceae</i> )	葉を食害。	
	シロシタヨトウ ( <i>Sarcopolia illoba</i> )		
	オオタバコガ ( <i>Helicoverpaarmigera</i> )		
	ツメクサガ ( <i>Heliothismaritimaadaucta</i> )		
	ガンマキンウワバ ( <i>Autographagamma</i> )		
	ナシケンモン ( <i>Viminia rumicis</i> )		
	ヒメシロモンドクガ ( <i>Orgyia thyellina</i> )		
	ウリハムシモドキ ( <i>Atrachyamenetriesi</i> )		
	ジャガイモヒゲナガアブラムシ ( <i>Aulacorthum solani</i> )		葉を吸汁。
	ワタアブラムシ ( <i>Aphis gossypii</i> )		
	オンシツコナジラミ ( <i>Trialeurodes vaporariorum</i> )		
	ネギアザミウマ ( <i>Thripstabaci</i> )		
	ナミハダニ ( 黄緑型 ) ( <i>Tetranychus urticae</i> )		
	アシノワハダニ ( <i>Tetranychus ludeni</i> )		
	スジプトホコリダニ ( <i>Tarsonemus bilobatus</i> )		
シュッコカミソク	斑点細菌病 ( 新発生 ) <i>Burkholderiaandropogonis</i>	葉に褐色の小斑点。	
アスター	萎凋細菌病 ( 新称 ) <i>Erwinia chrysanthemi</i>	地際から茎が水浸状に黒褐変、軟化・腐敗後、萎凋、枯死。	
シネラリア	黒根病 ( 新称 ) <i>Chalara elegans</i> (Syn.= <i>Thielaviopsis basicola</i> )	根が黒変、生育不良。	
りんどう	えそ萎縮病 ( 新発生 ) <i>Clover yellow vein virus</i> (CIYVV)	葉に多数のえそを生じ、えその周辺部は紫色に変色。えそは同心円状に拡大し葉全体が枯死。	
りんどう	リンドウホソハマキ ( 新発生 ) <i>Phalonidia rubricana</i>	幼虫が成長点に近い茎内に潜入して髓部を食害し蛹化。食害茎は芯枯れとなり、茎頂部が枯れる。	
サダ - ソニア	白絹病 ( 新発生 ) <i>Sclerotium rolfsii</i>	地際部が白色の菌糸に覆われ、0.85 ~ 2.25mm の茶褐色、球形 ~ 亜球形の菌核が多数付着し、立枯れる。	
ピオラ	根腐病 ( 新発生 ) <i>Chalara elegans</i> (Syn.= <i>Thielaviopsis basicola</i> )	根が黒変、生育不良。	
しいたけ	ムラサキアツバ ( 新寄主 ) <i>Diomea cremata</i> (Butler)	子実体 ( きのこ ) の表面を削り取るように食害。	